



シューズバンクプロジェクトと挨拶運動

校長 梶谷 雅弘



1年による挨拶運動と4年の靴の回収風景

4年生は、1月26日から2月27日まで、シューズバンクプロジェクトに取り組み、毎朝、交代で回収箱をもって立ち、朝の挨拶と共に靴の協力依頼と回収を行いました。きっと、普段より早く登校するので、前日から心の準備をし、家の方にもいつもより早く起こして頂いたのではないかと思います。また、大きな声で、元気よく挨拶をし靴の協力を呼びかけることにも大きな抵抗があったと思いますが、見事にそのプレッシャーをはねのけて活動をしました。一ヶ月以上に亘る活動なので、靴を回収できない日もあるのではないかと心配をしていましたが、4年児童の熱意に比べようと、多くの方が協力してくださり、途絶えることなく回収ができました。

この厳しい寒さに耐え活動に取り組んだ4年生を、私は誇りに思います。そして、協力をして頂いた皆様はこの場をお借りして心より御礼申し上げます。本当に有り難うございました。

4年生は、この活動を通して、自分たちの優しさをフィリピンの子供たちに伝える喜びややりがいを感じました。また、笑顔で靴を持ってきてくれた仲間から感謝をし、活動の中で「頑張っているね。」と声をかけてもらったことに感謝をし感激していました。

そして、「自分たちの事だけでなく、他の人の事も考えることを教えてくれて有り難うございました。」と活動に参加できた事に対して感謝の気持ちをもつことが出来ました。

靴をプレゼントされたフィリピンの友達も、きっと、その靴を履き毎日学校に通い、自分の夢を実現させるために、学校生活を充実させることと思います。

シューズバンクプロジェクトと並行して、各学年の児童が、交代で昇降口に立ち挨拶運動を行っています。学校評価で挨拶についての評価が思わしくないため、全校児童で取り組むことにしました。1年生が当番に当たった日は、保護者の皆様にお願ひし、学校まで一緒に登校をして頂きました。保護者の皆様のご支援のお陰で実現した挨拶運動です。温かいご支援に感謝申し上げます。学校中にさわやかな挨拶が響き合っています。3日(火)から5日(木)まで、南が丘中学校の生徒が校門で、みなみ委員会の児童と一緒に挨拶運動を展開してくれる予定です。

道徳授業地区公開講座・パネルディスカッションの報告



南田中図書館に展示された2年の作品紹介ポップ

昨年12月10日に放映されたクローズアップ現代「広がる読書ゼロ～日本人に何が～」によると、大学生で3年間に一冊しか読書をしないという人がおり、さらに、日本人の2人に1人が読書時間ゼロという実態があるそうです。

本校では、6年前に体育館との合築により開館した区立南田中図書館と連携した教育活動を推進してきましたが、大きな成果を上げています。特に、国語の授業の中で、どのように支援をして頂くかに視点を置き、単元を貫く言語活動を取り入れ読書に力を入れて実践し授業改善に取り組んで来ました。

読書は、知性を育み心を豊かにするとされています。

先月14日に実施した道徳授業地区公開講座では、公開授業に引き続き、「心豊かな人生を送るために～読書のすすめ～学校でできること家庭でできること」という演題で、パネルディスカッションを行いました。

パネリストの清水達郎教諭と村上光紗教諭から本校の研究の概要や児童の様子を、村田裕教諭からは、道徳と読書について、よむよむたい世話人の榎本由紀様から、読み聞かせの様子や選書の苦労話や児童の様子、そして、共同研究者の尾原由記学校図書館支援員から、司書の立場から見た児童の様子やご自分の心構えや苦労話をして頂きました。

冒頭の番組で、脳科学の立場から、東京大学大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授は、「本を読むという行為は決して情報を得たいというためにやるわけではなくて、むしろ『自分の中からどの位引き出せるか』という営みであり、」「読書と言っても、そういう言葉だけでは実はなくて、視覚的に映像を頭の中に想起するとか、過去の自分の体験と照らし合わせて対比して考えるとか、自分で得られた情報から更に自分で自分の考えを構築するというプロセスがはいってくるので、人間の持っている創造的な能力がフルにいかされることとなります。」と述べています。

本校の研究の裏付けとなるものと確信をしています。

まとめとして、清水達郎教諭から、是非、親子で、おすすめの本を紹介し合うビブリオバトルに取り組んでみましょうという提案をいたしました。実践されてはいかがでしょうか。